

# これがオススメ！ 全学年向き 読み聞かせ本

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

小学生は、高学年になるほど、「絵を描くのは得意じゃない。笑われたらいや」と思う子どもが増えるそうです。「自分が描いた絵は世界に一枚しかないはず。人と比べなくて大丈夫」と教えてあげたいですね。今回は、描くことの楽しさが伝わってくる『こんにちは！ わたしのえ』を紹介しましょう。

大きくて真っ白なキャンバスに、絵の具で思い切り自由に絵を描いていく女の子。生き生きとした様子が、様々な擬音語で表されていて、偶然から生まれる色の世界を楽しめます。

わたしはこの本を、病気や病弱の子どもたちが通う特別支援学校で読み聞かせました。寝たきりや車椅子で過ごす、重い障害がある子どもたちに、絵を描く楽しさを知ってほしいと願って読みました。

読み聞かせていると、子どもたちが、だんだんうれしそうになっていくのがわかりました。そして、「だん！ ずる！ にゆるううううううううううう」と、絵の具を手で塗り楽しむ様子を読んだときに、一人の子どもがそれを追いかけて口に出し、先生方を驚かせました。

わたしはこのとき、ある障害児と家族の記録『グシユラの奇跡―140冊の絵本との日々』（下ロシー・パトラー著 百々佑利子 訳 のら書店）を思い出しました。

よい本は、子どもの成長に大きな力となります。読み聞かせは、物語の面白さを発見する種をまいているのかもしれない。

後日、学校を訪れると、いろんな色の絵の具を足の裏に塗り、足型で大樹の葉を表現した大作を見ることができました。本は子どもたちを豊かにします。



## こんにちは！ わたしのえ

はたこうじろう作  
(ほるぶ出版)